シャインマスカットの栽培管理～幼木管理、芽かき、開花前の花穂管理　等～

佐賀県果樹試験場　落葉果樹担当　係長　太田　政隆

ブドウは生育が早いため管理作業のタイミングを逃さないことが重要です。作業が遅れると後の仕事が大変になります。特に、開花期前後はその年の収量・品質に影響する大切な作業が続きますので、早め早めの対応を心がけてください。

【植え付け後の管理】

植え付け直後は乾燥に弱いため、土の乾き具合を確認してこまめに潅水を行ってください。新梢が伸び出したら勢いの良い２本を残して残りは芽かきします。残した新梢に優劣がつき始めたら弱い方の新梢を除去して１本にします。伸びた新梢は支柱に誘引し、棚上 20cm 程度まで伸ばします。その高さまで達したら棚から 20cm～30cm 下の位置で切り返して副梢を伸ばします。新梢や副梢は枝が垂れ下がらないようにこまめに誘引を行ってください。

【芽かき】

展葉５枚目頃になると花穂の良し悪しが確認できるようになります。副芽（１つの芽から２つ発芽した芽)、芽座の真上から出た芽や下向きの不要な芽をかき取り、横～斜め上に伸びている芽を残します。新梢が多い場合はできるだけ主枝に近い場所から出ているものを残します。新梢は誘引時に欠けてしまう場合があるのでやや多めに残して、誘引時に最終調整します。

【新梢の誘引】

シャインマスカットは、花穂整形の前までに新梢を主枝と直角に誘引します。誘引の時期が早いと新梢が折れやすく、遅れると新梢が重なって時間がかかりますので、生育が旺盛な新梢から順に誘引し、隣の新梢や反対側から伸びた新梢と重ならないようにしてください。

芽座が欠けて棚面に空間がある場合は、隣の新梢や反対側の新梢を使って空間を埋めます。芽座が多く欠けた場合は新梢を伸ばして翌年の結果母枝にします（図１)。その際、新梢が被さった果実に日陰を作って悪影響を及ぼさないように、摘芯を徹底してください。

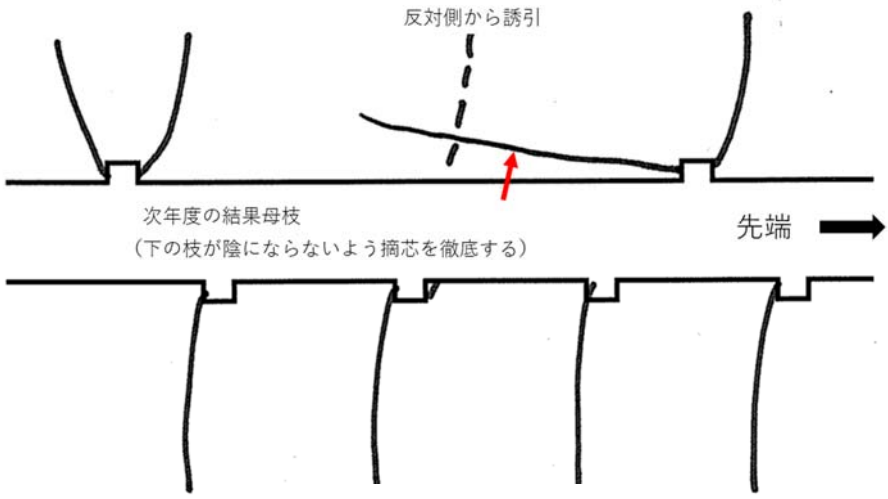

図１　座芽が欠けた部分の誘引例

【種子の混入防止】

シャインマスカットは、品種の特性として巨峰やピオーネより種子が抜けにくく、ジベレリン処理しても種子が残ることがあります。ストレプトマイシン液剤（アグレプト液剤またはストマイ液剤 20）を必ず使用してください。本剤の種なし化のしくみは、胚珠（種子になる部分）の発育を妨げるためとされています。開花前のできるだけ早い時期に処理した方が種なしの効果が高くなります。

処理時期は満開予定日の 14 日前～満開時となっており、１回目のジベレリンと混用処理できますが、面倒でも満開 10 日前までに単用散布してください。なお、本剤は樹体内で移行しにくいため、花穂にムラ無く散布してください。また、乾燥していると効果が低下しますので、乾燥している場合はかん水を行って園内の湿度を高めてください。

シャインマスカットは、樹勢が弱いと種が入りやすくなるため、樹勢を強く保つ必要があります。生らせるすぎに注意して、肥培管理をしっかり行ってください。開花時期は、巨峰（種あり栽培）では、種子の入りを良くするためにかん水を控えますが、シャインマスカットではしっかり行ってください。

【開花前の花穂管理】

（摘房）

シャインマスカットはジベレリンで実を止めるため結実は安定しています。巨峰（種あり栽培）では良い房を確保するために花穂を多めに残し、摘房を数回かけて丁寧に行いますが、シャインマスカットはこの手間が不要です。形の良い果房を１新梢に１～２つ残します。花穂に奇形（先端が細いもの、平たくなったもの、２つに分かれたもの）が多い場合は、副穂を利用してください（図２）。

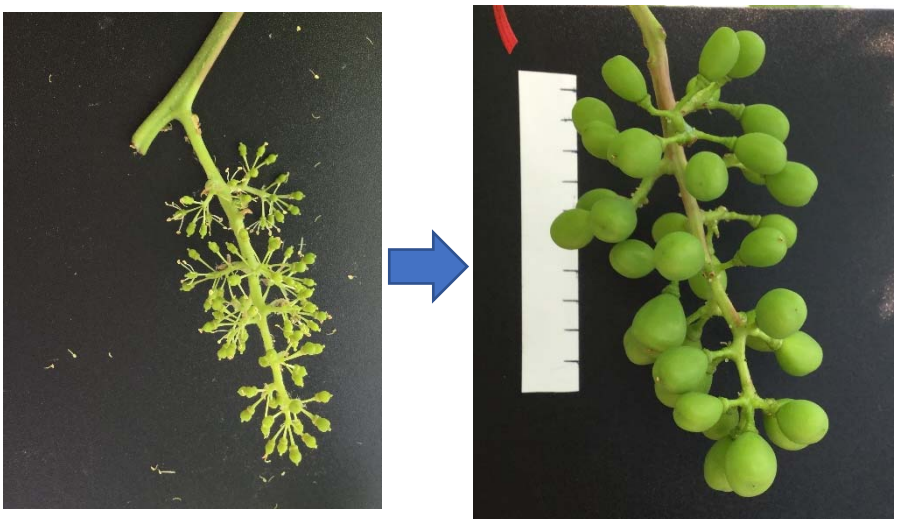

図２　肩部を使った房作り

（花穂整形）

花穂整形（房つくり）は、肩の花穂が１～２輪咲き始めた頃が適期です。開花前に行うと穂軸が伸び出し、遅くなると作業時に軸が傷みやすくなります。ハウスやトンネルでは温度が高く、開花が早い樹から順に始めてください。